

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

「ヒーロー」にふさわしい賃金を

労働条件改善求めストが全米席卷 昨年370件、9月以降4カ月で180件



様々な業種で労働条件改善

アメリカでストライキが相次いでいます。昨年1年で約370件、特に9月以降の4ヶ月で約180件のストが起っています。ケロッグ社のコーンフレーク工場です。たった労働者は、「(コロナ禍で) 従業員たちはアメリカの朝食を支えてきた。当初ケロッグはわれわれをヒーロー扱いしたが、何かを求めた途端にゼロ扱いだ」と語っています。ケロッグ社では12月21日、物価上昇分を賃金に上乗せする「COLLA」(生活費調整)を盛り込んだ労働協約が結ばれました。

必要なのは労働組合の闘い

職場状況の悪さが原因とも言われています。日本もインフレが進んでいます。昨年12月時点です。昨年12月間の物価上昇率は0.5%、携帯料金値下げの影響を除くと1.98%に達します。

<昨年12月までの1年間の主な物価上昇率>	
電気代	13.4%
ガス代	10.5%
灯油	36.0%
ガソリン	22.4%
食品	たまねぎ 59.8%、りんご 29.5%、(輸入品) 11.1%など

コロナ前から日本は世界でも例外的に賃金が上がっていません。「生産性の伸びは30%だが賃金は1%減少」「07〜18年で正規労働者の実質賃金は1%低下」「賃金上昇率の低迷は、歴史的にも経済理論的にも説明がつかない」「衝撃的」と指摘されています。

※ ※ ※

JRでもコロナ下で日々鉄道を運行し安全を守ってきたのは現場労働者です。しかし、会社はボーナスを大幅に減らし定昇までカットしました。「業務融合・職名廃止」など現場労働者をないがしろにしています。こんな仕打ちは許せません。状況を変える力があるのは、職場からの声と闘う労働組合の力です。